

YMS 2019年度 解答速報

日本大学医学部 A 方式

YMS HPIにも
掲載中!



<https://yms.ne.jp/>

【生物（解答）】

1

- 問1 1・2-⑤・⑦（順不同）
問2 3-②
問3 4-③
問4 5-①, 6-①, 7-②, 8-①,
9-②

2

- 問1 10-①, 11-①, 12-⑥, 13-②
問2 14-①, 15-①, 16-③, 17-⑧
問3 18-④, 19-③, 20-⑧
問4 21-③

3

- 問1 22-⑤
問2 23-⑥
問3 24・25-②・③（順不同）

4

- 問1 (1)26-⑦, 27-③
(2)28-⑥, 29-④
(3)30-⑥, 31-④
問2 32-②
問3 33・34-②・④（順不同）
問4 35-④
問5 36-⑤, 37-②
問6 38-①

5

- 問1 39-①, 40-④, 41-⑨, 42-⑧,
43-②, 44-⑥, 45-⑦, 46-③
問2 47-①
問3 48-③

【生物（講評）】

例年通り大問5題（2017年度のみ6題）であった。高度な考察問題や煩雑な計算問題の割合が低く、知識問題の割合が高いため、解答に時間はかからないが、選択に戸惑う問題が幾つか含まれており、そこで差がつく。

1 DNA断片の塩基配列に関する問題。PCR法、制限酵素、塩基配列の決定法について問われた。慌てずに処理すれば正解できるが、少し時間を取られる。なお、DNAの塩基配列の決定法については、2014年度入試でマクサム・ギルバート法が出題されている。

2 神経系の反応に関する問題。問1・問2が計算問題であり、情報処理能力が問われる。問3は横紋筋の収縮に関する基本的な知識問題。問4はアセチルコリン分解反応の速度に関する問題で、酵素の反応速度についての理解があれば容易い。

3 M期促進因子に関する実験考察問題。遺伝子発現やホルモンに関する知識を用いて、リード文と実験結果を読み解く力が試された。差がつきやすい。

4 生物が行うエネルギー変換に関する問題。光合成と呼吸について、その相違点を比較して理解できていれば難しくはないが、曖昧な知識があると間違えやすい。2015年度入試の大問2で、光合成に関しての類題が出ているので、過去問で対策していた受験生は答えやすかったであろう。

5 動物の系統関係に関する問題。系統樹を理解して覚えていれば容易に解答できる。**YMS**の直前講習で類題を解いたので、受講していた受験生は有利であった。

マーク数は、昨年度が39であったのに対して、今年度は48に増加しており、解答にやや時間を取られる問題が数題出題されたので、全体としてはやや難化したといえるが、それでもやはり時間的には余裕がある。一次合格には75%以上の得点が望まれる。